

ごあいさつ

GREETING



皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当金庫に格別のお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、第74期の業績推移や1年間の活動状況をとりまとめましたディスクロージャー誌「REPORT 2022」を作成いたしましたので、ご高覧いただき、当金庫へのご理解をより一層深めていただければ幸いに存じます。

令和3年度の我が国経済は、一昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されるなか、昨年9月末に緊急事態宣言が解除されたことから、足元では人流が回復し、これまで抑制されてきたサービス消費がリバウンドするなど、正常化に向けた明るい兆しも見えてきております。しかしながら、新たな変異型「オミクロン株」の感染急拡大により、依然としてコロナ禍収束が見通せない状況が続いており、更にロシアのウクライナ侵攻などにより先行き不透明感も増し、景気回復のペースダウンも危惧されております。また、取引先中小企業の業況はコロナ禍の長期化により、いまだ低迷しており足元が固まるまではしばらく時間がかかるものと思われ、原油高や原材料の高騰も今後の不安要素となっております。

こうした情勢のなか、当金庫は新型コロナウイルス感染症により影響を受けられた中小企業等に対し、その経営状況やライフステージに応じた適切な金融支援に取り組むとともに、ポストコロナにおけるビジネスモデルの再構築に向けた経営改善・事業再生・事業転換支援や、地域が抱えるさまざまな課題の解決に取り組んでまいりました。

その結果、預金の期末残高は前期より29億84百万円増加し1,013億97百万円となり、貸出金につきましては、12億45百万円増加し380億56百万円となりました。

損益状況につきましては、本業での収益を示すコア業務純益は3億38百万円（対前年度比49百万円減）、経常利益は2億78百万円（対前年度比44百万円増）となり、最終的な当期純利益は2億23百万円（対前年度比66百万円増）とすることができました。金融機関の健全性、安全性を示す自己資本比率は17.74%となり国内基準で求められる4%を大きく上回り十分な水準を維持しております。

また、普通出資に対する配当率は年4%とさせていただきます。

これも偏に、会員の皆様方をはじめ、お取引先各位のお力添えの賜物と深く感謝申し上げます。

さて、令和4年度は当金庫の中期経営計画（令和2年4月～令和5年3月）の最終年度となります。計画に掲げた「顧客との共通価値の創造」を意識した経営戦略の策定を行い、お客様に寄り添い付加価値の高い課題解決策に取り組む所存でございますので、なお一層のご支援ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年7月

理事長 小林 明宗